

人材養成目的

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。

人文学類

College of Humanities

学士(人文学)

■ Bachelor of Arts

人材養成目的

「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題に積極的に関与し発言しうる、真に教養ある人材を養成します。

求める人材

人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し解決していく能力と意欲を有する人材。

卒業後の進路

卒業生の約7割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約3割は大学院に進学しています。

大学院進学の実例

■筑波大学大学院…人文社会科学研究科、人間総合科学研究科、教育研究科、生命環境科学研究科

■他大学大学院…東京芸術大学、早稲田大学、東京大学、京都大学、一橋大学、ロンドン大学

就職先の実例

学校教員

■公立…長野県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、静岡県、沖縄県、滋賀県

■私立…川越東高等学校、都文館夢学園、拓殖大学第一高、土浦日本大学学園

官庁・自治体・独立行政法人等

総務省、文部科学省、東京都、埼玉県、茨城県、栃木県、千葉県、つくば市、下野市、小平市、高石市、筑波大学、厚生労働省茨城労働局、国土交通省航空保安大学校、高エネルギー加速器研究機構、東京高等裁判所

企業・団体

■マスコミ・出版…NHK、朝日新聞社、毎日新聞社、山陽新聞社、明治図書出版、KADOKAWA、朝日テレビ、山形テレビ、新潟放送

■情報・通信…日本アイ・ピー・エム、NTTドコモ、朝日ネット、PCIソリューションズ、マイナビ、共同通信社、日本郵便

■金融・保険…三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、筑波銀行、常陽銀行、足利銀行、イオン銀行、日本生命保険

■機械・化学・エネルギー・製造…日立製作所、昭和シェル石油、ディスコ(精密加工)、東レエンジニアリング、帝人、ブリヂストン、富士機械、日本電機、ヤマハ発動機

■運輸…JR東日本、日本交通、京浜急行電鉄、日本通運、全日本空輸、国際興業、静岡鉄道

■建設・不動産…オリックス不動産、長谷コーポレーション、三井ホーム、飯田産業

■食品・化粧品…サッポロビール、キューピー

■商社・流通…三菱商事、大蔵屋商事、伊藤忠エネクス、東洋冷蔵、ミスグループ、ニチレイロジグループ、ファンケル

■教育…四谷大塚、中萬学院、茨進個別指導学院、ナガセ、トライグループ

■サービス…三井不動産ホテルマネジメント、森トラスト・ホテルズ&リゾーツ、ゼロイン、吉本興業、星野リゾート、コナミデジタルエンタテインメント、イリア、PUC

■調査・コンサルティング…PwCアドバイザリー、ペイカレント・コンサルティング

教育の質の保証と改善の方策

■定期的な試験・レポートと授業アンケートの実施により、教育目標の達成度について教員と学生が双方向に評価し、教育力を向上するよう努めています。

■クラス連絡会を通じて学生・教員間の意見交換を行うことにより、教育の質の持続的改善を図るシステムを確立しています。

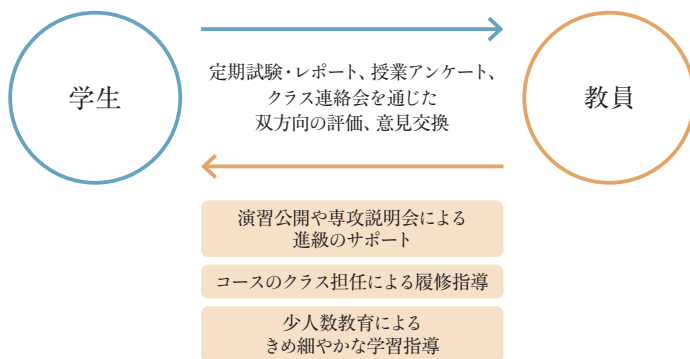
■1・2年生のために、演習公開や専攻説明会を実施し、3年次での主専攻・コースへの進級が円滑に進むようサポートしています。

■1人の教員が1年次から4年次までを通して担当するクラス担任制と並行して、3年次以降は、11コース毎にクラス担任が設けられており、コースのクラス担任が専攻に即した履修指導を行っています。

■演習授業や卒業論文指導では、少人数の学生を対象に、個々の学修の進展状況を十分に把握し、それに応じたきめ細かい指導を行っています。

■実習授業では、報告書を作成するなどして成果を地域社会へ還元し、その評価を授業の改善に生かすことに努めています。

教育力向上への取組



学士（人文学）

Bachelor of Arts

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（人文学）の学位を授与します。

■ 専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し不断に更新していくことができる。

■ コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に了解可能な共通認識に到達することができる。

■ 想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。

教育課程編成・実施の方針

学士（人文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という四つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース（全体として11コース）を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける充実した学修カリキュラムを提供しています。また、各授業は基本的に春学期と秋学期で完結するカリキュラムとし、在学中の海外留学などに柔軟に対応できるようにしています。

順次性に関する方針

教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を育てつつ、豊かな教養の涵養を重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。

■ 1年次には「専門基礎科目（入門）」などを通じて、人文科学一般に関する広い知識を伝えるとともに、各種の共通科目によって主体的な思考の基礎となる教養を育てます。それと並行して「専門基礎科目」を通じて専門を学ぶための基礎を養います。

■ 2年次から3年次に主専攻・コースを選択し、各分野の研究の方法論を身に付け、問題解決能力を高めます。同時に、現代世界の諸問題に対する人文学的視点の重要性を意識させるとともに、実習授業などで直接的に社会との連携や対話を深めま

す。さらに、演習授業では、教員・学生間の対話を通して自己発信能力を向上させます。また、早くから「人間とは何か」という問いに立脚した卒業研究に向けての問題意識を高めます。こうして身につけた幅広い教養と専門的能力に基づき、4年次で卒業論文を作成させます。

実施に関する方針

■ 学生の志望を尊重し、主専攻・コースは主体的に選択させます。教員が学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能な少人数教育を重視しています。また、多くの教室では映像や音声メディアも駆使した授

業を受けられる設備が整っていると、PCサテライトを利用して学修する環境も整えています。

学修成果の評価に関する方針

それぞれの授業科目では、教員が厳正な教育評価を実施する。2年次末には、各コースが指定している専門基礎科目が履修されているかを確認し、その結果に基づいてコースへの所属を決定する。4年次には、12月に提出される卒業論文の内容とそれについての口頭試問の結果を総合的に評価し、学類が定める学位授与の方針における目標に到達しているか判断する。

主専攻・コースの構成

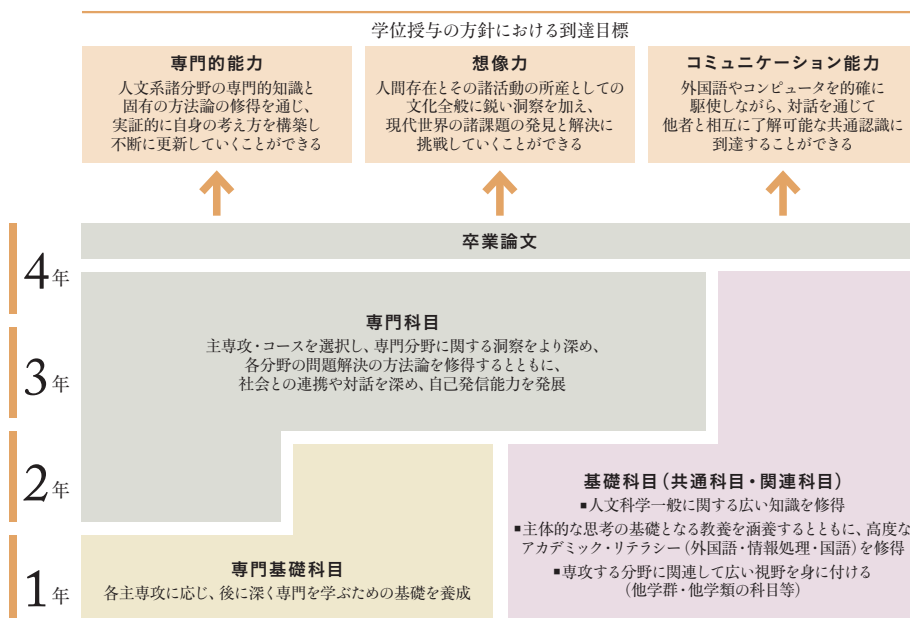
哲学主専攻
哲学・倫理学
宗教学

史学主専攻
日本史学
ユーラシア史学
歴史地理学

考古学・民俗学主専攻
先史学・考古学
民俗学・文化人類学

言語学主専攻
一般言語学
応用言語学
日本語学
英語学

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（人文学）

Bachelor of Arts

特色

一定の範囲内で、他コースや他主専攻、他学類の授業も履修し、幅広い視野を身につけられるような教育課程を編成しています。また、在学中に最低二つの外国語を重点的に学び、幅広いコミュニケーション能力を身に付けることができるようにしています。さらに、留学先で履修した授業の単位の認定が可能です。

